



希望 光 明日

学校だより 令和6年9月3日 校長 大澤由美子

[学校教育目標]

心豊かな生徒

意欲的に学ぶ生徒

たくましく生きる生徒

実りある2学期に

2学期が始まりました。台風の影響でスタートが遅れましたが、生徒たちが元気に登校してくる様子を見て、嬉しく思っています。今年の夏はとても暑い日が続きましたが、暑さに負けず大会やコンクールで優秀な成績を収めたり、学校の代表、川越市の代表として普段できない経験をしてきたりと、本校生徒が活躍した報告がいろいろ入ってきています。また、始業式では各学年の代表者が2学期の抱負を述べてくれました。3人とも大変立派で頼もしく、どの学年も実りある2学期になるだろうと確信しました。

さて、今年の夏はパリでオリンピックが開催されました。今、パラリンピックも行われています。皆さんは、何か印象に残っている種目、競技、場面等がありますか。私は、体操の橋本大輝選手のコメントが印象に残っています。それは、涙を流しながら語った「団体の金だけでおなかいっぱい。悔しい気持ちより、幸せすぎて涙が出ちゃった」という言葉です。個人総合で連覇を期待されながら6位という結果に終わり、メダルを逃した場面でのことです。インタビューのマイクを向けられた直後は、「悔しい」とあふれる涙で語った橋本選手。でも、すぐに思い直したように「悔しい気持ちより、なんか幸せ過ぎて、涙が出ちゃった」と表現して、「団体で金メダル。とりあえずエースとして、エースとしてできたかは知りませんが、みんなのために戦えた。今大会、本当に悔いが残らない大会でした」と語りました。そして、個人総合で優勝した後輩の岡選手を「彼の努力とあきらめなかった強さに感動した」とたたえました。「今は堂々とやりきった思いでいっぱいです」と語り、仲間との絆や周囲からの応援やサポートに対する感謝の言葉を何度も繰り返していたことも印象に残っています。橋本選手は輝いていて、エースとしての誇りを感じました。エースという重荷を背負い、苦しいことがあっても耐えて努力してきた人の強さ、大ききなのだろうと思います。また、橋本選手にはこんな場面もありました。日本の団体金メダルがほぼ確定したとき、中国選手の最終演技が残っていました。日本の優勝を確信して沸き立つ会場に向け、唇に人さし指を立て「静かに」と促したのです。体操の演技の美しさはもちろんのこと、演技以外の場面での言葉や行いも美しいと思いました。

2学期は1年の中で一番長い学期です。行事もいろいろあります。一人一人が役割を担い、皆で創り上げていく場面もたくさんあります。相手のことも自分のことも大事にして、互いに相手の考えや思いを押し量りながら自分の力を出し切って、さらに素晴らしい川越西中学校にしてほしいと思います。

学習も、部活動も、委員会や係の仕事も、一所懸命取り組む。そして、悔いなく終わる。充実した2学期となることを期待しています。まずは、体育祭。私にとってはオリンピック以上に楽しみなものです。生徒たちの光り輝く姿を楽しみにしています。生徒と一緒に「なんか幸せ過ぎて、涙が出ちゃった」と、感動の涙を流したいと思っています。